第１学年国語科学習指導案

日　時　平成１５年１０月３日（金）５校時
場　所　１年Ｂ組教室
学　級　１年Ｂ組（男子１５名，女子１４名，計２９名）
指導者　畠　山　　剛

１　単元名　　四　暮らしを見つめる　　「魚を育てる森」

２　単元について

(1)　教材観

本単元「四　暮らしを見つめる」は，第１学年の中で２回目の説明的文章を中心とする単元である。従って，「二　自然の不思議をさぐる」での学習を生かし，さらに学習を発展させる単元である。

「読むこと」の学習においては，「文章の要旨をとらえること」「文章から課題を見つけること」が中心になっている。「魚を育てる森」，「『めぐる輪』の中で生きる」共に環境の問題がテーマになっていて，生徒が環境に関する課題を見つけるには，適した教材である。

本教材「魚を育てる森」は，海の生物と森が実は密接な関係にあることを例にあげながら，自然界は微妙なバランスを保ちながら互いに関係し合って存在していることを述べている。その上で，わたしたちが自然の状態をよく知り，できるかぎりバランスを壊さないように考えるべきであることを主張している。

序論部，本論部，結論部が明確で，また，本論部は問いを投げかけで答えを述べるという形が２回繰り返されていて，論理的な文章構成となっている。従って，文章の構成や要旨をとらえるには，適した教材である。

しかし，生徒にとって難しい語句が多く，意味調べをしっかりと行うなどの必要があると考えられる。

(2)　生徒観

素直で明るい生徒が多い。また，どの教科の授業でも，教師や友達の話に耳を傾け，ノートをしっかりととり，落ち着いて取り組める生徒が多い。しかしその反面，時間をかけてじっくりと考えるということを苦手にしている生徒が多くみられる。

国語に関しては，「好き」「どちらかというと好き」と感じている生徒が全体の半数ほどを占め，授業にも前向きに取り組んでいる。しかし，国語に苦手意識を感じ，学習意欲の乏しい生徒も５，６名いる。

説明的文章の学習は，１学期に「二　自然の不思議をさぐる」の単元で行っている。教材「海の中の声」では，主にキーワードを手がかりに小見出しをつけ，まとまりごとの内容をとらえることを中心に学習を行った。その結果，評価Ｃの生徒が３名であった。教材「クジラたちの音の世界」では，主に問いと答えに注目して内容をとらえる学習を中心に行った。その結果，評価Ｃの生徒が４名であった。また，「クジラたちの音の世界」の学習では，後の言語事項の単元「文法１（言葉のきまり，指示する語句と接続する語句）」と関連させて，コース別学習も行った。これらの学習をもとに，「書くこと」，「話すこと・聞くこと」の学習へと展開した。

(3)　指導観

現在，国語科の指導において，「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習に多くの時間を要する傾向にあり，「読むこと」の学習をいかに短時間で行うかということが求められている。

本単元「四　暮らしを見つめる」は，１３時間扱いである。従って，「魚を育てる森」の「読むこと」の学習でも，配当できる時間は３～４時間程度である。

今回は，主に次のような工夫をしながら，３時間で本教材を読む授業の提案をしたいと考える。

①　音読の時間を短時間で行う。
②　指導事項を，「文章の構成をとらえること」，「要点をまとめること」に絞る。
③　ノートに書く内容を必要最小限にとどめる。

3　単元目標及び評価規準

(1)　単元目標

関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
・自然や環境について，自分とのかかわりを考えながら文章を読み，自分の考えを，わかりやすくみんなに伝えようとしている。 ・自分の課題に沿った資料をもとに，自分の考えをまとめようとする態度を育てる。	・話し合いの意義や目的を理解し，事実と意見の違いを区別しながら，的確に話したり，聞き取ったりすることができる。	・適切な材料を選び，伝えたい事実や事柄，自分の考えが，明確な意見文を書くことができる。	・文章の構成や展開を確かめながら要旨をとらえ，自分のものの見方や考え方を広めることができる。	・多様な語句，語彙について関心をもち，文と文との接続関係を考え，語句の意味を正確にとらえる。

(2)　評価規準

関心・意欲・態度	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
・自然や環境について興味・関心をもち，自分とのかかわりを考えながら読み進め，自分の考えをまとめ，表現しようとしている。	・話し合いの意義や目的を理解し，事実と意見の違いを区別しながら，意見交換をしている。	・図書館などで目的に合った資料を探し，調べてわかったことをもとに，調べてわかったことと自分の自分の意見・提案とを区別した意見文を書いている。	・各段落の要点をとらえ，要旨をまとめている。	・多様な語句，語彙について関心をもち，文と文との接続関係を考え，語句の意味を正確にとらえている。

4　単元の指導計画と評価規準（１３時間扱い）

次	時間	指導計画	評価規準
第一次（読むこと）	5時間	○「魚を育てる森」の音読練習。難語句調べ。 ○文章構成を把握する。第３段落の問いの答えをまとめる。 ○第６段落の問いの答えをまとめる。**(本時)** ○「『めぐる輪』の中で生きる」の音読練習。前半部の要点をまとめられる。 ○後半部の各段落の要点をまとめ，全体の要旨をまとめられる。	○１分間で４００字以上で，すらすら読もうとしている。 ○文章構成を把握し，第３段落の問いの答えを文と文との関係に留意しながら，まとめている。 ○中心文を手かがかりに，第６段落の問いの答えをまとめている。 ○「めぐる輪」とは何かをまとめている。 ○筆者があげている例と主張を指摘している。
第二次（書くこと）	5時間	○自分の課題を見つける。 ○課題に必要な情報を集める。 ○課題に必要な情報を集め，構想を建てる。 ○集めた情報を整理し，文章構成の明確な６００字程度の意見文を書く。 ○意見文を推敲し，お互いに読み合う。	○２つの文章や友達の考えをもとに，自分の課題を見つけている。 ○自分の課題に沿った資料を，図書室などから集めている。 ○自分の課題に沿った資料を集めながら，構想を建てている。 ○調べてわかったことと，自分の意見，提案を区別して意見文を書いている。 ○意見文をお互いに読み合い，そのよさを指摘している。
第三次（話すこと・聞くこと）	3時間	○意見交換の準備をする。 ○グループごとに意見交換をする。 ○グループ内でどんな意見交換をしたかを確かめ合う。	○意見交換のメモを作り，分かりやすい発表のための練習をしている。 ○事実と意見の違いを区別しながら，的確に話したり，聞き取ったりしている。 ○代表者の発表を聞き，自分の考えを深めている。

5　本時の指導（３／１３）

⑴　授業の構想

本論部の２つ目の問い「森は，海にとってどのような役割を果たしているのか」ということについて，まとめさせることを本時の中心としたい。課題解決のためには，今まで学習してきた段落の中心文やキーワードが手がかりとなる。そのことを生徒に伝え，取り組ませていきたい。また，自力で解決することが難しいと考えられる生徒には，補助プリントを用意して課題解決に当たらせたい。さらに，課題解決のための時間をできる限りとり，生徒が考える時間を保障したい。

音読については，前教材「海の中の声」や「クジラたちの音の世界」などで，すらすら読めるように取り組んできた。引き続き１分間で４００～４５０字程度の音読を続けていきたい。

また，常に机上に国語辞典を用意させ，意味のわからない言葉などが出てきたら，積極的に活用させていきたい。

(2) 目標

○　森が魚を育てる重要な役割をしていることを，中心文を手がかりに読み取ることができる。

(3) 展開

過程	学習過程	学習活動	指導上の留意点	評　価
導入（2分）	1課題把握	1　本時の課題を確認する。 課題　森は海にとってどのような役割を果たしているのか。	・2つ目の問いと答えの段落を確認する。 ・紙板書	
展開（38分）	2課題追究	2　課題を解決する。 ○　第6～13段落を一斉読する。 ○課題について個別学習する。 〔補助発問〕 ①　魚を育てるために，重要な働きをしているのは，森林の何か。　腐植土 ②「腐植土」の役割は何か。 8段落…雨水を地中に保ち，適量を流し続ける 11段落…海の生物を育てる栄養分（窒素，リン，ケイ素）を海に送る 12段落…鉄が水に溶けるようにする ③森林の役割は何か。 11段落…土を陸地につなぎ留めている	・1分間に400字以上を目指し，すらすら読ませる。 ・ノートにまとめさせる。 ・「役割」という言葉や中心文を手がかりにさせる。 ・生徒の意欲や能力に応じて，補助プリントを利用させる。	・音読 A…教科書の文章から，自力で読み解くことができる。 B…1文改行の本文プリントを使って，中心文を手がかりに読み解くことができる。 C…ヒントカードを使い，教師の支援を受けながら読み解くことができる。
終末（10分）	3課題解決	3　課題の正解を確認する。 ○課題の答え合わせをする。 ○第9，13段落の内容も確認する。 9段落…腐植土がなくなるとどういうことが起こるか 13段落…腐植土と魚介類の関係について ○第14段落が第6段落の答えのまとめになっていることを確認する。 4　結論部の筆者の主張を確認する。 ○第16段落の中心文を指摘する。 第3文 5　次時の学習内容を確認する。 筆者の主張をとらえ，全体の構成をまとめる。	・生徒に発表させながら，正解を確認する。	・正答に○をつけさせ，誤答は正しい答えを書き込ませる。授業終了後，ノート，ヒントカードを回収する。

(5) 板書計画

魚を育てる森　　松永　勝彦

森は海にとってどのような役割を果たしているか。

魚を育てるのに、重要なのは

⑦「腐植土」

腐植土の役割

<4つの働き>

⑧ 雨水を地中に保ち、適量を流し続ける

⑪ 海の生物を育てる栄養分を海に送る

⑫ 鉄が水に溶けるようにする

森林の役割

⑩ 土を陸地につなぎ留めている

このように

⑭ 森が海の貝や魚を育てている

《ヒントカード》一年　組　番　氏名

◎ 次の問題に答えなさい。

① 魚を育てるために、重要な働きをしているのは、森林の何ですか。

② 腐植土の役割について書いてあるのは、第8段落のどの文ですか。

③ 第9、10段落は、腐食土の役割について書いてありますか。

④ ただし、第10段落には「役割」という言葉が出てきます。この文は腐植土について書いてありますか。

⑤ 第11段落で腐植土の役割について書いてあるのは、どの文ですか。

⑥ 第12段落で腐植土の役割について書いてあるのは、どの文ですか。

⑦ 第13段落は、腐植土の役割について書いてありますか。

⑨ 第14段落は、第6段落の答えの段落です。問いの答えになっている文はどれでしょうか。

魚を育てる森

松永　勝彦

1
① 北海道襟裳岬。
② 北海道を背骨のように南北に走る日高山脈の先端が、沖合数キロメートルまで海藻のしげる岩礁となって太平洋に延びている。
③ 緑の丘の上には白い灯台が建ち、海辺には見渡す限りクロマツの針葉樹林が続いている。

2
① ところが五十年前、この辺りは「襟裳砂漠」とよばれていた。
② どこまで行っても草木のない砂地と砂山であり、風速十メートルをこえる風にその砂が飛ばされて、目も開けられないほどであったという。
③ だが、そのさらに昔、江戸時代までのここは、カシワ、ナラ、シラカバなどの広葉樹が生いしげる大森林地帯だった。

3
① いったいなぜ、広葉樹林帯が「砂漠」と化し、今はクロマツの針葉樹林帯となっているのだろうか。
② そこには今日の環境問題にかかわる重大な意味をもつ歴史がある。

4
① 江戸時代後半から、主に岩礁に生えるコンブを求めて、この辺りへの人々の移住が始まった。
② 明治になると、開拓農民も加わった。
③ 人々は、強風や寒さと闘いながら、家を作り、暖をとるなど、生きるために森の木を切り続けた。
④ さらに、明治中期以降は、紙の材料としての森林の伐採も行われた。
⑤ その結果、森は年ごとに失われ、ついに一帯は砂漠となった。
⑥ 同じ時期、コンブの生育が目に見えて悪くなっていった。
⑦ 沿岸部にすむ魚たちも姿を消し、サケなどの回遊魚も来なくなった。

5
① 森は消え、海は死んだ。
② しかし、当時はその関係を考える人はなかった。
③ ただ、せめて強風によって家の中まで侵入する砂から解放されたいという住民の願いによって、飛砂防止の緑化事業が着手された。
④ 厳しい環境の中、五十年をかけて、ようやく草を植えることに成功し、風に強いクロマツによる防砂林を作るまでに至ったのが現在である。
⑤ そして、この緑を再生する過程で、人々は海にコンブや魚がもどってきたことに気づいた。

6
① 緑がよみがえることで、失われた漁場もどったのはなぜなのだろうか。
② 森は、海にとってどのような役割を果たしているのだろうか。

7
① 森林では、底部に落ち葉や枯れ枝が積み重なる。
② 森にすむ動物たちのふんや死体もある。
③ これらは、微生物によって次第に分解され、風化によって砕かれた岩石と混じり合って、黒い湿った土になる。
④ これを腐植土という。

8
① 腐植土は、上に積もった落ち葉の層が水分の蒸発を防いで、いつも湿っている。
② 水を吸ったスポンジのようになっていると思えばよい。
③ スポンジに少し水分を含ませておいて上から水を垂らすと、水はスポンジにしみこんでいく。
④ さらに垂らし続けると、やがてスポンジの下から水が流れ出す。
⑤ 同じように、湿った腐植土は雨水を地中に保ち、適量を地下水として流し続ける役割を果たしている。
⑥ それで、森林は「緑のダム」ともよばれる。

9
① 腐植土がないと、こうした調整作用が失われ、雨は地表を流れ、直接河川に入る。
② これは、大洪水になったり渇水になったりと、河川の水量が著しく変動する要因になる。
③ 河川の生物が生きるためには、一定の水量が必要であるが、渇水になれば淡水魚や河川で産卵するサケなどの魚は生活できない。

10
① さらに、森林がなくなり腐植土層が消失すると、その下の鉱物土層がむき出しになる。
② ここに大雨が降ると、大量の雨水と共に土砂が流れ出し、一気に海まで運ばれる。
③ この影響を直接受けるのが、海底で生活する動植物である。
④ ウニ、二枚貝などは土砂に埋もれて死んでしまう。
⑤ 土砂におおわれた岩場にはコンブやワカメは付着できない。
⑥ 沿岸の漁場や岩場に生える海藻に産卵する魚たちは、そこが土砂に埋まれば二度ともどってはこない。
⑦ 森は、土を陸地につなぎ留めることで、海の生物を守る役割ももっているのである。

11
① そのうえ、腐植土そのものには、海の生物を育てる大事な役割がある。
② 腐植土の中には、岩石の風化や動植物の分解によってできた、窒素、リン、ケイ素などが含まれている。
③ これらは、植物の生育に欠くことのできない栄養分のもとである。
④ これらが腐植土から地下水にとけこんで川から海へと運ばれる。
⑤ そして、沿岸付近で、海藻や植物プランクトンを育てる栄養となる。

12
① また、海藻や植物プランクトンは、光合成のために微量の金属を必要とする。
② 海水中には、必要なほとんどの金属が水にとけた形で存在しているのだが、鉄だけは粒子となっている。
③ 粒子状の鉄を、生物は利用できない。
④ ところが、腐植土の中で作られる有機物質と腐植土中の鉄が結合すると、水にとけるようになる。
⑤ これが海へ流れこむことによって、海藻や植物プランクトンは鉄を取りこむことが可能になるのである。

13
① 実際に、函館湾に流入している久根別川河口で植物プランクトンの量を測定してみると、河川が影響する海域では、影響しない海域の五十倍から百倍高い数値が得られる。
② つまり、河川が運ぶ森林起源の物質が、沿岸部の植物プランクトンを育てているのである。
③ 植物プランクトンは、動物プランクトンや小魚のえさになる。
④ アワビやウニは、コンブやワカメなどの海藻を食べる。
⑤ こうしてみると、魚介類は、えさとなる植物プランクトンや海藻の量によって生存量が決められることになる。
⑥ したがって、魚介類を増やすためには、そのいちばんもととなる植物プランクトンや海藻を増やさなければならない。
⑦ それには、森林の腐植土から流れてくる物質が必要なのである。

14
① このように、海の生物は、森とたいへん強く結び付いている。
② 森が海の貝や魚を育てているともいえよう。
③ だから、襟裳岬のように、森が消えれば海も死んでしまうのである。
④ この状況は、日本各地で現実化している。
⑤ そこで、例えば気仙沼の漁民のように、漁業を行う人たちが、自分たちの漁場を守ろうと川をさかのぼって植林を始めている所もある。

15
① 砂漠化した土地にクロマツを根付かせるまでに、えりも町は五十年間も苦労をしてきた。
② ただし、これはクロマツが最も活着しやすかったためであり、元の広葉樹の森林の姿にもどすには数百年かかるだろうといわれている。

16
① 森と海だけではない。
② 自然界は、微妙なバランスを保ちながら、互いに関係し合って存在している。
③ そのことを肝に銘じて、わたしたちは、自然の状態をよく知り、できるがぎりバランスを壊さないように考えるべきであろう。